

「東アジアジュニアワークショップ参加報告書」

京都大学文学部2年 (氏名) 山口莉花

東アジアジュニアワークショップは、京都大学・国立台湾大学(NTU)・ソウル国立大学校(SNU)が共同で開催する社会学の学生によるワークショップです。5日間に渡って行われ、1から3日目までは史跡や博物館でフィールドワークをし、4・5日目は各大学の学生が社会学に関する発表を行います。昨年は京都、今回はソウルでの開催となりました。来年は台湾で行われます。

フィールドワークでは特に戦争記念館が印象に残りました。そこでは子供向けのイベントを開催しており、親子連れが非常に多く騒がしい雰囲気だったのです。その名称から、厳かな雰囲気で大人数向けの施設だと思っていたのですが、全く逆で衝撃を受けました。しかし、あまりに小さな子供に戦争のことを教えることについては賛否両論がありそうです。

これ以外にも、このワークショップに参加してさまざまな経験をしました。その中で得た成果の主なものを二つ挙げます。

まずは自分の英語技能のレベルに危機感を持ったことです。SNUやNTUの学生と話したり、プレゼンを聞いたりすると、その英語能力の高さに圧倒されます。国内での勉強だけでそれほどの能力を身につけた学生も多くいました。それを尊敬するとともに、自分との差を痛感し、大学に戻ったら英語により力を入れることを決めました。次に、日本にとっての国際社会における東アジアの重要性を認識できたことです。このワークショップで韓国に行くまでは、隣国の韓国や中国、台湾についてよく知っているような気になっていました。行ったとしても知っている文化ばかりだと思い、海外に行く機会があればヨーロッパや、アジアの中でも東南アジアなどを訪れていました。しかし実際に東アジアに行ってみると、相違点が溢れていたのです。滞在中に、そのような似ているけれど違う箇所を見つけるのが楽しくなってきました。ワークショップの中でも、日台韓の違いについてのディスカッションがいくつかありました。それほど、共通点も多いが対立する事項も多い独特な地域なのです。だからこそ、そこに住む私たちがこの地域の未来のことを考え続けることが非常に重要だと感じました。これから専門の勉強を始める際に、そして日常生活の中でも、東アジアについては考え続けていきます。

また、私の専攻は社会学ではありませんが、このプログラムへの参加を通して社会学の発表を沢山聞き、どれも非常に興味深かったので、私の研究にも社会学の視点を入れてみようと思っています。